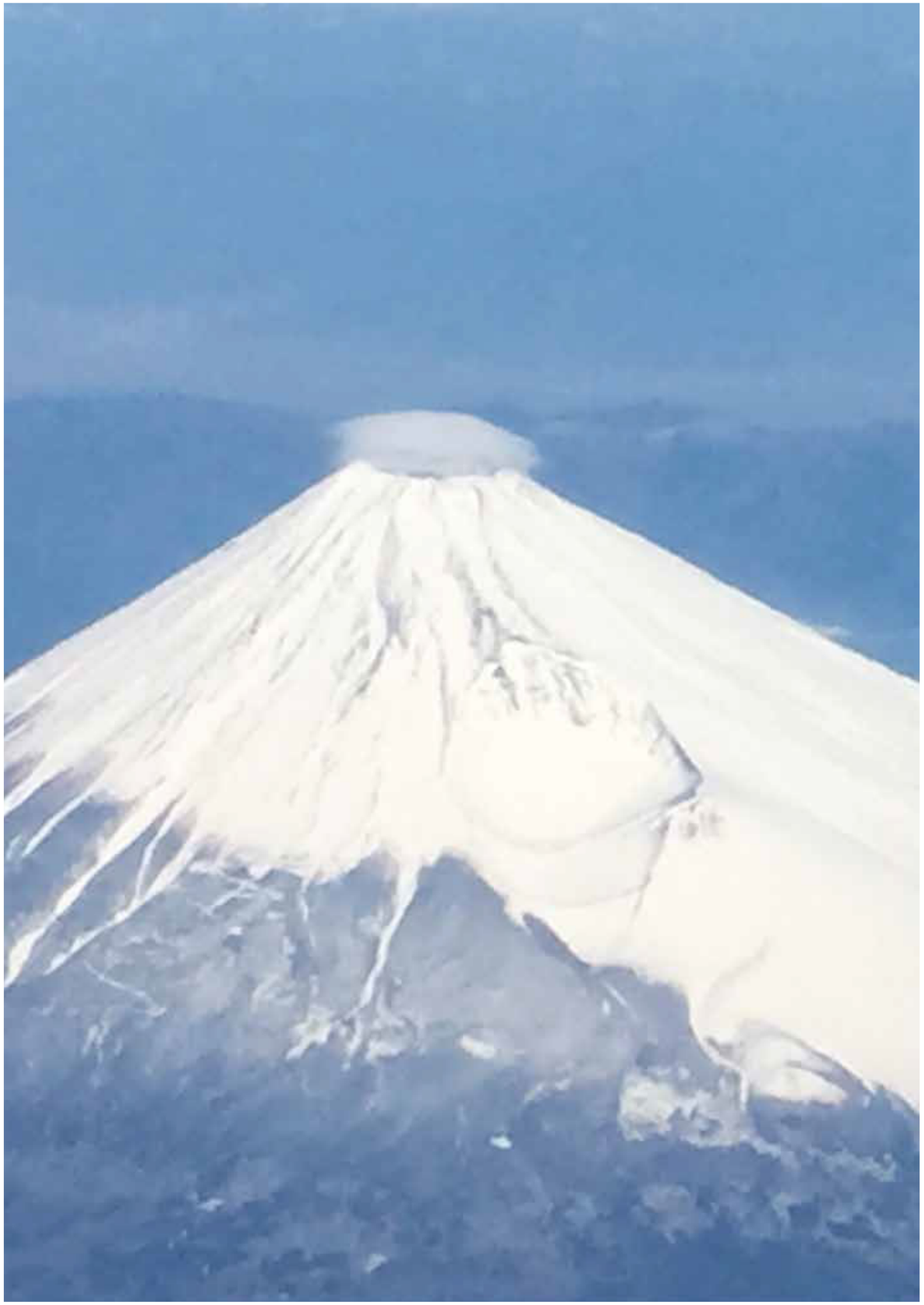

富士山（撮影：徳真会グループ理事長 松村博史）

順逆
Vol. 20
JUNGYAKU

# 順境と逆境

先日、イスラム国で二人の日本人とヨルダン人パイロットが殺害され、日本ヨルダンのみならず、世界の人々に大きな憤りと戦慄を与えました。
世界にはいろいろな宗教が有りますが、そもそも宗教とは、我々がどういう死生観を持つのかの基本となる哲学だと思います。
人はどういう死生観を持つかでその人の人生観や生き様が決まってくると思っています。
しかし、こうした自分自身が信仰する宗教や信じる価値観を他人に強要するのは、良識ある人のやる事ではないと思います。
イスラム国過激派の非人道的な行為は、彼らに言わせれば米国や自分達に同調しない国々が悪いという論理に基づいたものの様ですが、その論理を続ける限り周りは敵だらけとなり、永遠に彼らに幸せは来ないと思います。

そもそも、この世はままならないのが当たり前なのです。
世の中をうまく渡り、順風満帆得意の絶頂にある人をみると、多くの人はその幸福を羨みますが当人にしてみれば案外、外からは分からない辛さ苦しさがあったりするものです。
人間というものは自分にないものを他人が持っていると、これを羨ましく思い不平不満が起きるのが普通だと思います。
地位の高い人を見れば、その栄華を羨みますが、山の頂きに登ってみればやはり麓の小屋の方が住みやすいということもあります。
**「咲かざれば桜を人の折らましや　さくらの仇はさくらなりけり」**という歌もあります。
他人が羨ましく思うことが当人にとっては苦痛となる事も多く、どんな人でもそれに相当した逆境があるものです。

例えば第16代アメリカ大統領リンカーンは、生まれた家は非常に貧しく、着る服も履く靴も満足にありませんでした。
家は人里から遠く離れ、「ワシントン伝」を借りるために数里を歩かねばならず、知らない文字があっても調べる字引も教えを請う先輩もありませんでした。
その上に早くに母を失い、継母に育てられました。
普通の人に比べれば、確かに逆境にあったと言わねばならないでしょう。
こうした家が貧しい、教え等してくれる人がいないなどの境遇にあれば、不幸ばかりを訴える人が大半だと思います。
しかし、リンカーンはその逆境をバネに大きくなったのです。
リンカーンが逆境を切り抜けたのは天分において優れていた点もあったでしょうが、逆境に対して修養の覚悟があったからだと思います。
不幸には２つの不幸が有る様に思います。
１つは外から来た不幸、もう1つは自らつくり出す不幸です。
前者は「運命」と称され、後者は「自業自得」と言われます。
自然災害や家族の病気や死、自らの病気や不遇など外から来た不幸も人生には有り、そういう時、自分はこれ程努力しているのにこんな逆境に陥るとは神も仏もあるものかと、天の摂理を疑ったりする気にもなります。
しかし、こうした時なぜ逆境に陥ったかをよく考えないで天を怨んだり人を怨んだりする人は、逆境を越える事は出来ないと思います。

イスラム国の過激派程ではないにしても、我々が生きる上で、ものの考え方次第で逆境もまた順境へと変えてゆけるものだと思います。
西郷南洲は
　天を恨（うら）まず
　人を咎（とが）めず
　我が誠（まこと）の足らざるを尋（たず）ぬるべし
と言って己を律しました。
順逆二境
表裏一体止む事無しです。

徳真会グループ
理事長　松村 博史